

平成17年度第3回音環境運営委員会 議事録

記録：古賀

- A. 日 時 平成17年10月13日（木） 17時00分～19時50分
B. 場 所 建築会館307室
C. 出席者 平松友孝、岩瀬昭雄、大鶴徹、赤尾伸一、河井康人、岸永伸二、
佐久間哲哉、坂本慎一、中澤真司、濱田幸雄、羽染武則、吉村純
一、

古賀貴士

欠席者 井上勝夫、佐藤哲身、中川清、濱田幸雄、藤本一壽、安岡博人、
吉久光一 (敬称略)

D. 提出資料

- No.3-1 平成17年度第2回音環境運営委員会議事録（案）（古賀）
No.3-2 日本建築学会 音環境運営委員会委員会 委員名簿
No.3-3 音環境運営委員会関連委員会 委員名簿
No.3-4 2005年度第三回環境工学本委員会議題(抜粋)
No.3-5 「討論会－学術・技術の現場と音響数値解析ベンチマークプラット
フォーム(仮題)」実施計画書（大鶴）
No.3-6 「兵庫県立芸術文化センター見学会」実施計画書(平松)
No.3-7 音環境アカデミックスタンダードWG第二回議事録ほか
No.3-8 日本音響学会建築音響研究会 今後の予定
No.3-9 日本音響学会騒音振動研究会 今後の予定
No.3-10 「年次事業計画」の作成依頼
No.3-11 建築設計資料集成・環境部会・拡張編 委員名簿

E. 審議事項

1. 委員の委嘱について

・企画刊行運営委員会傘下「学校施設の音環境保全規準解説刊行小委員会」の福地
智子

主査に音環境運営委員会の委員として参加いただくことが承認された。

2. 前回議事録確認

・修正事項特になし

3. 本委員会報告

・アクションプランの実施状況(資料 3-4 p.15)
・調査研究委員会の活動報告会の実施予定について案内があった。1委員会あたり
15分。

環境工学は来年度実施される。

- ・ 建築学会大賞に、松浦先生を推薦することを確認
- ・ 技術部門設計競技の課題提案募集があり、設備運営委員会より「超省エネルギー」の提案があった。
- ・ 環境工学シンポジウムのあり方について、①大会会期中でない人が集まらないとの考えから研究協議会と一本化する方向が濃厚である、②今年度一月は開催しない、との本委員会幹事の見解が披瀝された。
⇒大会会期中だとすると時間がない、懇親会の代わりに開催する、2つ研究協議会のうちひとつをこれに充てる、2年に一回の開催とするなどの意見があった。
- ・ 委員会評価システムについて、本委員会幹事の見解が示され、優れた成果を出した委員会を本委員長が表彰する方針とのこと。大会論文発表やシンポジウムでは学会へのフィードバックは少なく、出版物を出すことが表彰の前提となりそうである。
- ・ 環境工学シンポジウムおよび評価システムのあり方については、本委員会の動向をもう少しみたい。
- ・ 環境工学教材改訂WGに対し、委員(執筆者)推薦の依頼があり、音環境運営委員会からは、佐久間先生、坂本先生に担当いただくことが了承された。

4. 来年度年次計画について

来年度の計画および予算原案を所定のフォーマットに従い中澤幹事宛提出のこと
(学会事務局の締切：11/11)

- ・ 来年度大会におけるオーガナイズドセッションテーマについて募集があり、主査・幹事でテーマおよびオーガナイザについて検討し依頼することとした。

5. 小委員会・WG活動報告

- ・ 数値解析小委員会(大鶴) 9/5に開催。3月13日に討論会を開催する(現場サイドの意見を求めたい)。

・集合住宅(羽染) 9/22に開催。デベロッパへのヒアリングを継続的に試みているが、

今まで実施できていない機関については実施が進まない状況。ヒアリングの中で「赤本は難しい」との意見があり、もっと噛み砕いた出版物・アカスタが必要なのではな
いかとの意見が出ている。

・固体音(平松) 9/8に開催。タイヤからボールに移行する場合の問題点を整理している。
根拠の確認として、11/13に三井住友技研において実音源の収録試聴を計画している。

・測定法(赤尾) 10/6に開催。3つの分科会にわけ活動中。インピーダンス測定のマニュアル作成、スクリーニングを目的とした短時間測定法の検討、Labs測定のマニュアル作成。

・室内音響(岸永) 異分野との交流や教育について議論している。

・企画広報(中川) 現行規格の再まとめを実施中。2006年にシンポジウムを開催予定。

関連書籍について整理し、良書と思われるものをPRし、絶版も再版に向けて働きかけ
ていく予定。地位向上について議論中

・アカスタ(佐久間) 音声伝送WGの成果からアカスタを作成の方向。ただし、基準値

はあるが、それに対する設計法がないのが現状の問題である。

赤本のアカスタ化について、小委員会で検討中の3つの案が示された。

・学校音響アカスタや現行JISは赤本と異なる部分があり、整理をしていかないと、

ダブルスタンダードとなる

・建築学会で住宅に関し、一般を対象に解説したものがあれば望ましい。

・明確なところは科学的根拠をもとに記述していく必要がある。遮音などは相対評

価であり、出す側の値についても何らかの対応が必要ではないか。

⇒公開討論会などを開催し広く意見を求めて欲しい(平松)。

(その他)

・資料集成(坂本) 環境編については、2006/1までに原稿を書き上げることとなった。

6. 今後のシンポジウム・見学会等の予定

11/25 建築音響研究会

1/18 兵庫県立文化会館見学会

3/13 数値解析小委員会 討論会

次回予定 2005年12月8日 17:00～ 建築会館会議室